

京都府立北稜高等学校

環境委員会

地域を結ぶ環境委員会の取組 ～KESを基盤とした環境保護活動～

18年間連続での認証を更新しているKES(KES環境マネジメントシステム・スタンダード)を基盤に環境保護活動に取り組んでいます。環境委員会を中心とした生徒主体の環境保護活動の取り組みを、近隣の駅や施設、自然、文化に至るまで、学校と地域が強く繋がりが発信していく事で、地域に根ざした持続可能な環境保護活動を実現しています。さらに、地球規模での環境問題の解決を目指しています。



京都府立宮津高等学校・京都府立宮津天橋高等学校

フィールド探究部 巨樹班

森と共に生きる～Our living heritage～

丹後地域の巨樹の分布から、自然・歴史の特徴や人との関わりを読み解き、保全・活用につなげることを目標に調査を行っています。樹種・胸高幹周・位置情報等をデータベース化し、証言や文献と併せて分析しました。これまで2720本(11月末現在)を確認。森林と人間生活との関連から、その保全には人の関わりが不可欠と考え、幼児や高校生が森を体感的に学び・楽しむ機会を企画・実践しました。



京都府立宮津高等学校・京都府立宮津天橋高等学校

フィールド探究部 里山班

命のゆりかご きよっさんの田んぼを守れ

こだわりの稲作で維持されてきたきよっさんの田んぼは、府内唯一のサンショウモの自生地です。しかし、獣害・水害やきよっさんが高齢になられ、その環境が失われつつあります。私たちはその保護を目指し、タライや池での増殖実験や生態の調査を行いました。結果、畔の修復や沢から水を引き入れて現地にビオトープを作成し、増殖させたサンショウモを移植し、定着と増殖に成功しました。

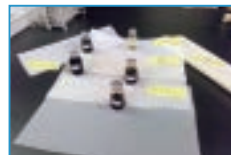


大阪府立千里高等学校

油とり係

布による油の吸着性の検討

油(ガソリン)が津波により海に流れたというニュースを知り、「布による油の吸着性」の研究を行いました。流れでた油は海洋に長い期間漂い環境に悪影響を及ぼし、油吸着材で海洋の油を吸着させていることを知り、安価で手に入りやすい布を油の吸着剤としてつかうことはできないか検討しました。結果はフェルト化されたレーヨンがどの油にも高い吸着性があり、最も適当であるといえます。



大阪府立豊中高等学校 能勢分校

地域魅力化クラブ

高校生の提案で地域電力会社設立!～エネルギーを変える。まちが変わる。～

「私たちが生まれ育った能勢町の再生」これが我々の活動のテーマである。我々は「SW導入による能勢町活性化」の研究チームを立ち上げ、2020年7月に「能勢・豊能まちづくり」という新電力会社が設立された。地域や行政を巻き込むことで、高校生の提案は実現できた。今後はバイオマス発電なども検討し、地域と新電力会社と連携して研究を進め、持続可能な里山の発展に寄与したいと考えている。



清風高等学校

生物部 シロアリ班

シロアリが日本を救う!?

山などで放置されている間伐材をシロアリに食べさせ、そこで繁殖したシロアリの、近年価格が高騰している養殖魚の餌や、燃料として用いることで、林業、水産業、燃料問題を解決する、という研究をおこなっています。私たちは、日本が抱える問題や、それを解決しようとするこの研究を、もっと多くの人に知ってもらおうと、先輩から自分たちへ、とバトンを受け継いだ形で研究を進めています。



羽衣学園高等学校

ごみ箱ラッピングチーム

「ごみ箱ラッピング」

7月からレジ袋が有料になるなど、マイクロプラスチック問題が世間的にも認知されるようになりました。そこで、学校に『ごみ箱ラッピング』を設置し、多くの生徒へ海洋プラスチックごみの問題提起に取り組んでおります。市役所や警察署、テレビや新聞等の紹介により『ごみ箱ラッピング』のアイデアが全国各地へ広がっています。高校生でも取り組めるSDGs活動を積極的に展開しております。



大阪高等学校・関西大倉高等学校・須磨学園高等学校

オタマボヤ合同研究チーム

大阪湾・播磨灘におけるワカレオタマボヤの分布と、硫化物濃度の影響についての研究活動

ワカレオタマボヤという動物プランクトンを知っていますか?このワカレオタマボヤが海の保全活動に使えるのではないかと考え研究をしています。研究内容の1つは硫化物に対して回避行動をとるのかというもの。もう1つは環境DNAを用いた個体数調査です。僕たちはこれらの研究を通して赤潮やそれが原因で発生する硫化水素を減らし、海の環境を改善しようとしています。

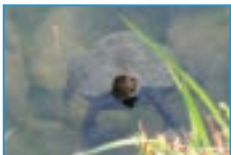


神戸山手女子高等学校

(仮)カメラ部

在来種ニホンイシガメの保全活動と環境DNAの研究

神戸市立須磨海浜水族園と神戸市立相楽園の協力を得て、相楽園の池で日本固有種であるニホンイシガメの域外飼育を2010年から行い、生態を調べると共に、繁殖を試みています。相楽園で捕獲してきた幼体を将来的には近隣の池に導入したいと考えています。また2019年は、ニホンイシガメの水中の環境DNAを1年間にわたって計測し、季節変動を調査しています。啓発活動も行っています。



兵庫県立神戸商業高等学校

理科研究部 Kensyo Rikaken

海を守ろう!海洋ごみ削減の取り組み

8年前から海洋ごみ問題に取り組んでいます。現在は、海洋ごみについて「調べる」・「学ぶ」・「伝える」・「行動する」をテーマに活動しています。須磨海岸や日本海側の竹野海岸での海岸清掃ボランティアにも参加し、回収した漂着ペットボトルの生産国や賞味期限を調べて海外から流れ着くごみと瀬戸内海を漂うごみの漂流ルートを推定しました。調査結果はできるだけ多くの場所で発表しました。

